

校長室だより



第100号

令和4年9月6日

校長 齋藤 瑞穂

2学期が始まって1週間、学校生活のリズムは取りもどせていますか。朝起きるのが大変だなあ、寝坊して朝ごはんを食べてこられなかったなあ、なんて人も、もしかしたらいるかもしれませんね。でも、私が中休みや昼休みの様子を見ていたところ、チャイムの前に声をかけ合っ

「地震！火を消せ！」

防災月間にあらためて考えよう

9月は防災月間です。今月の土曜授業日には、防災について学習しますし、1年生の引き取り訓練もありますね。

では、なぜ9月が防災月間になっているのでしょうか。高学年のみなさんは知っていますね。今から約100年前、1923年9月1日、関東地方をおそった大地震によって、およそ105000人が命を失ったりゆくえがわからなくなったりした、「関東大震災」があった月だからです。

みなさんは、2011年3月に起きた、東日本大震災についてよく知っているでしょう。東日本大震災で多くの人命をうばったのは、津波でした。東京、しかも海から距離のある杉並では、津波がくることはあまり考えられませんから、みなさんには危機感がうすいかもかもしれません。

しかし、関東大震災で多くの人の命をうばったのは、津波ではありません。火事です。関東大震災で最初の大きな地震が起きたのは、昼



関東大震災後の火災で焼け野原になった東京の様子

少し前、11時58分のことでした。ちょうど昼ご飯の準備のために、多くの家庭が火を使っていた時間です。あちらこちらで火の手が上がると、その火はまたたく間に燃え広がり、地震で倒れた家に閉じこめられたり家具の下じきになって身動きがとれなかったりした人々は、どうすることもできずに命を落としました。

同じような被害は、1995年に西日本で起こった阪神淡路大震災でもありました。こちらの地震発生は早朝でしたが、特に神戸など、都市部の住宅や店が密集している場所では、火災による被害が大きかったのです。

このように、たくさんの方が密になってくらししている東京などの大都市は、地震の揺れには耐えられたとしても、その後の火災の危険は非常に大きいのです。杉七小のまわりも、消防車が通れないような細い道路や、となりとのすき間がほとんどないほど混みあって建物が建っている場所があるでしょう。他人事ではないですね。ですから、

「地震！火を消せ!!」という言葉は、地震後の火災を防ぎ、命を守るための合言葉なのです。

関東大震災から今年で99年。この間に、地震の揺れを逃がして建物が倒れることを防ぐ工夫や、燃えにくい建築材料の開発など、技術が発展しました。また、地域の避難所や各家庭では、水道や電気、ガスなどが止まっても数日間はくらしていけるだけの食料等の準備なども進んでいます。このように、地震から大切な命を守るための対策は着実に充実しています。しかし、何より大切なのは、一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という強い思いで行動することです。防災月間は、あらためて日ごろの自分の防災への備えを見直し、気持ちをひきしめる月にしていきましょう。

保護者の方へ

防災月間ちなみ、今月は子供たちの防災意識を高めることに取り組んでいます。17日には防災学習と1年生の引き取り訓練があります。どうぞご協力ください。